

積立式定期預金 **ステップアップ** 規定

1. 預金の預入等

- (1) 積立式定期預金 **ステップアップ** (以下「この預金」という。) の預入は自由金利型定期預金 (M型) (以下「スーパー定期」という。)、または自由金利型定期預金 (以下これらを「積立口預金」という。) とします。
- (2) この預金の 1 回の預入は積立口預金の最低預入金額以上とします。
- (3) この預金は、別途「積立式定期預金 **ステップアップ** 申込書」 (以下「申込書」という。) で指定を受けた方法にしたがい、自動振替により預入を行います。自動振替によらず当店窓口で預入するときには必ず通帳を持参してください。
- (4) この預金の預入口数は、当金庫が定めた口数を限度とします。
- (5) この預金口座を開設するときは、「申込書」により中間満期日および最終満期日とすべき毎年の一定の月および日 (以下両満期日をあわせて「満期日」という。) を指定してください。
- (6) この預金は、その預入日から最初に到来する中間満期日を満期日とする積立口預金として預入するものとします。ただし、中間満期日の 1 か月前の応当日の翌日から、その中間満期日の前日までの間に預入される預金は、次の中間満期日を満期日とする積立口預金として預ります。
- (7) この預金は、申込書により指定を受けた最終満期日 (通帳に記入します。) の 1 か月前まで預入できます。
- (8) 預入方法の変更をするときは、自動振替日の前営業日までに当金庫所定の書式により当店に届出てください。

2. 証券類の受入れ

- (1) 小切手その他の証券類 (以下「証券類」という。) を受入れたときはその証券類が決済された日を預入日とします。
- (2) 受入れた証券類が不渡りとなったときは預金になりません。不渡りとなった証券類は、通帳の当該受入れの記載を取消したうえ、当店で返却します。

3. 預金の種類・継続方法等

- (1) この預金は「まとめ継続タイプ」または「自動解約タイプ」のいずれかを選択してください。
 - ① (2)まとめ継続タイプ
 - ① この預金は通帳記載の満期日に積立口預金を 1 口にまとめ、元利金または元金の合計額をもってあらかじめ申込書で指定を受けた種類および期間等の内容にしたがい自動的に自動継続スーパー定期または自動継続自由金利型定期預金 (以下これらを「おまとめ自動継続定期」という。) として合算継続します。継続後の利率は、継続日における当金庫所定の利率とします。
 - ② ただし、継続後の利率について別の定めをしたときは、その定めによるものとします。
 - ② おまとめ自動継続定期の元金は、積立口預金の継続方法が満期日に支払う利息を元金に組み入れて継続する取扱いの場合は、継続前の積立口預金の合算した税引後元利金合計、積立口預金の継続方法が満期日に支払う利息を預金口座に振替えて継続する取扱いの場合は継続前の積立口預金の元金合計とします。
 - ③ 継続後の元金により次の通り継続しますので、ご指定の預金種類とは異なる場合があります。
 - A 継続後の元金が自由金利型定期預金の最低預入金額未満の場合
自動継続スーパー定期として継続します。
 - B 継続後の元金が自由金利型定期預金の最低預入金額以上の場合

自動継続自由金利型定期預金として継続します。

④ おまとめ自動継続定期については、その預金種類により自動継続自由金利型定期預金（M型）規定または自動継続自由金利型定期預金規定により取扱います。

⑤ 継続を停止するときは、満期日の前営業日までに当金庫所定の書式により当店に届出てください。この届出があったときは、その預金は満期日以後に支払います。

(3)自動解約タイプ

この預金は通帳記載の満期日以後に利息とともに「申込書」で指定を受けた預金口座へ自動的に振替え支払います。ただし、満期日が休日の場合は翌営業日に支払います。

4. 利息

(1)この預金の利息は、積立口預金ごとにその預入日から満期日の前日までの日数について、預入日における当金庫所定の利率によって計算し、あらかじめ指定された方法により支払います。

(2)利率については、金融情勢の変化により変更することがあります。この場合、新利率は変更日以後に預入される金額については、その預入日から適用します。

(3)この預金を第7条第1項により満期日前に解約する場合、および第7条第3項、第4項の規定により解約する場合、その利息は預入日から解約日の前日までの期間について当金庫所定の期限前解約利率によって計算し、その元金とともに支払います。

(4)この預金の付利単位は積立口預金の付利単位とし、1年を365日として日割で計算します。

5. 反社会的勢力との取引拒絶

この預金口座は、第7条第4項各号のいずれにも該当しない場合に利用することができ、第7条第4項各号の一にでも該当する場合には、当金庫はこの預金口座の開設をお断りするものとします。

6. 取引の制限等

(1)当金庫は、職業、事業内容、取引目的、国籍、在留資格、在留期間等の預金者の情報および具体的な取引の内容等を適切に把握するため、提出期限を指定して各種確認や資料の提出を求めています。預金者から正当な理由なく指定した期限までに回答いただけない場合には、入金、払戻し等の本規定にもとづく取引の一部を制限する場合があります。

(2)前項の各種確認や資料の提出の求めに対する預金者の回答、具体的な取引の内容、預金者の説明内容およびその他の事情を考慮して、当金庫がマネー・ローンダリング、テロ資金供与、もしくは経済制裁関係法令等への抵触のおそれがあると判断した場合には、入金、払戻し等の本規定にもとづく取引の一部を制限する場合があります。

(3)前2項に定めるいずれの取引の制限についても、預金者からの説明等にもとづき、マネー・ローンダリング、テロ資金供与、または経済制裁関係法令等への抵触のおそれが合理的に解消されたと当金庫が認める場合、当金庫は当該取引の制限を解除します。

7. 預金の解約

(1)この預金は、当金庫がやむをえないと認める場合を除き、満期日前に解約することはできません。

(2)この預金を解約または書替継続するときは、当金庫所定の払戻請求書に届出の印章により記名押印して、通帳とともに、原則として当店に提出してください。

(3)次の各号の一にでも該当した場合には、当金庫はこの預金取引を停止し、または預金者に通知することによりこの預金口座を解約することができるものとします。なお、通知により解約する場合、到達のいかんにかかわらず、当金庫が解約の通知を届出のあった氏名、住所にあてて発信した時に解約されたものとします。

① 口座の名義人が存在しないことが明らかになった場合または預金口座の名義人の意思によらずに開設されたことが明らかになった場合

- ② この預金の預金者が第11条第1項に違反した場合
- ③ 当金庫が別途定める取引時確認手続きにおいて確認した事項および前条第1項に定める各種確認や提出された資料に偽りがある場合
- ④ この預金がマネー・ローンダリング、テロ資金供与、経済制裁関係法令等に抵触する取引に利用され、またはそのおそれがあると合理的に認められる場合
- ⑤ この預金が法令や公序良俗に反する行為および犯罪行為に利用され、またはそのおそれがあると認められた場合

(4)前項のほか次の各号の一にでも該当し、預金者との取引を継続することが不適切である場合には、当金庫はこの預金取引を停止し、または預金者に通知することによりこの預金口座を解約することができるものとします。

なお、この解約によって生じた損害については、当金庫は責任を負いません。また、この解約により当金庫に損害が生じたときは、その損害金を支払ってください。

- ① 預金者が口座開設申込時にした表明・解約に関して虚偽の申告をしたことが判明した場合
- ② 預金者が、暴力団、暴力団員、暴力団員でなくなった時から5年を経過しない者、暴力団準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロまたは特殊知能暴力集団等、その他これらに準ずる者（以下これらを「暴力団員等」という。）に該当し、または次のいずれかに該当することが判明した場合
 - A 暴力団員等が経営を支配していると認められる関係を有すること
 - B 暴力団員等が経営に実質的に関与していると認められる関係を有すること
 - C 自己、自社もしくは第三者の不正の利益を図る目的または第三者に損害を加える目的をもってするなど、不当に暴力団員等を利用していると認められる関係を有すること
 - D 暴力団員等に対して資金等を提供し、または便宜を供与するなどの関与をしていると認められる関係を有すること
 - E 役員または経営に実質的に関与している者が暴力団員等と社会的に非難されるべき関係を有すること
- ③ 預金者が、自らまたは第三者を利用して次のいずれか一にでも該当する行為をした場合
 - A 暴力的な要求行為
 - B 法的な責任を超えた不当な要求行為
 - C 取引に関して、脅迫的な言動をし、または暴力を用いる行為
 - D 風説を流布し、偽計を用いまたは威力を用いて当金庫の信用を毀損し、または当金庫の業務を妨害する行為
 - E その他AからDに準ずる行為

8. 届出事項の変更、通帳の再発行等

(1)通帳や印章を失ったとき、または、印章、名称、住所その他の届出事項に変更があったときは、直ちに書面によって当店に届出てください。この届出の前に生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

(2)通帳または印章を失った場合のこの預金の元利金の支払いまたは通帳の再発行は、当金庫所定の手続をした後に行います。この場合、相当の期間をおき、また、保証人を求めることがあります。

9. 成年後見人等の届出

(1)家庭裁判所の審判により、補助・保佐・後見が開始された場合には、直ちに成年後見人等の氏名その他必要な事項を書面によってお届けください。預金者の成年後見人等について、家庭裁判所の審

判により、補助・保佐・後見が開始された場合も同様にお届けください。

(2)家庭裁判所の審判により、任意後見監督人の選任がされた場合には、直ちに任意後見人の氏名その他必要な事項を書面によってお届けください。

(3)すでに補助・保佐・後見開始の審判を受けている場合、または任意後見監督人の選任がされている場合にも、前2項と同様にお届けください。

(4)前3項の届出事項に取消または変更等が生じた場合にも同様にお届けください。

(5)前4項の届け出の前に生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

10. 印鑑照合

払戻請求書、諸届その他の書類に使用された印影を届出の印鑑と相当の注意をもって照合し、相違ないものと認めて取扱いしましたうへは、それらの書類につき偽造、変造その他の事故があってもそのために生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

11. 譲渡、質入れの禁止

(1)この預金および通帳は、譲渡または質入れすることはできません。

(2)当金庫がやむをえないものと認めて質入れを承諾する場合には、当金庫所定の書式により行います。

12. 保険事故発生時における預金者からの相殺

(1)この預金は、満期日が未到来であっても、当金庫に預金保険法の定める保険事故が生じた場合には、当金庫に対する借入金等の債務と相殺する場合に限り、当該相殺額について期限が到来したのとして、相殺することができます。なお、この預金に、預金者の当金庫に対する債務を担保するため、もしくは第三者の当金庫に対する債務で預金者が保証人となっているものを担保するために質権等の担保権が設定されている場合にも同様の取扱いとします。

(2)前記(1)により相殺する場合の手続きについては、次によるものとします。

① 相殺通知は書面によるものとし、複数の借入金等の債務がある場合には充當の順序方法を指定のうへ、通帳は届出の印章により押印して直ちに当金庫に提出してください。ただし、この預金で担保される債務がある場合には、当該債務または当該債務が第三者の当金庫に対する債務である場合には預金者の保証債務から相殺されるものとします。

② 前記①の充當の指定のない場合には、当金庫の指定する順序方法により充當いたします。

③ 前記①による指定により、債権保全上支障が生じるおそれがある場合には、当金庫は遅滞なく異議を述べ、担保・保証の状況等を考慮して、順序方法を指定することができるものとします。

(3)前記(1)により相殺する場合の利息等については、次のとおりとします。

① この預金の利息の計算については、その期間を相殺通知が当金庫に到達した日の前日までとして、利率は約定利率を適用するものとします。

② 借入金等の債務の利息、割引料、遅延損害金等の計算については、その期間を相殺通知が当金庫に到達した日までとして、利率、料率は当金庫の定めによるものとします。また、借入金等を期限前弁済することにより発生する損害金等の取扱いについては当金庫の定めによるものとします。

(4)前記(1)により相殺する場合の外国為替相場については当金庫の計算実行時の相場を適用するものとします。

(5)前記(1)により相殺する場合において借入金の期限前弁済等の手続きについて別の定めがあるときは、その定めによるものとします。ただし、借入金の期限前弁済等について当金庫の承諾を要する等の制限がある場合においても相殺することができるものとします。

13. 休眠預金等活用法に係る異動事由

当金庫は、この預金について、以下の事由を民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金

の活用に関する法律（以下「休眠預金等活用法」という。）にもとづく異動事由として取り扱います。

- ① 引出し、預入れ、振込の受入れ、振込みによる払出し、口座振替その他の事由により預金額に異動があったこと（当金庫からの利子の支払に係るものを除きます。）
- ② 手形または小切手の提示その他の第三者による支払の請求があったこと（当金庫が当該支払の請求を把握することができる場合に限ります。）
- ③ 預金者等から、この預金について次に掲げる情報の提供の求めがあったこと（この預金が休眠預金等活用法第3条第1項にもとづく公告（以下、本項において「公告」といいます。）の対象となっている場合に限ります。）
 - (a) 公告の対象となる預金であるかの該当性
 - (b) 預金者等が公告前の休眠預金等活用法にもとづく通知を受け取る住所地

14. 休眠預金等活用法に係る最終異動日等

(1) この預金について、休眠預金等活用法における最終異動日等とは、次に掲げる日のうち最も遅い日をいうものとします。

- ① 第13条に掲げる異動が最後にあった日
- ② 将来における預金に係る債権の行使が期待される事由として次項で定めるものについては、預金に係る債権の行使が期待される日として次項において定める日
- ③ 当金庫が預金者等に対して休眠預金等活用法第3条第2項に定める事項の通知を發した日。ただし、当該通知が預金者に到達した場合または当該通知を發した日から1か月を経過した場合（1か月を経過する日または当金庫があらかじめ預金保険機構に通知した日のうちいずれか遅い日までに通知が預金者の意思によらないで返送されたときを除く。）に限ります。
- ④ この預金が休眠預金等活用法第2条第2項に定める預金等に該当することとなった日

(2) 第1項第2号において、将来における預金に係る債権の行使が期待される事由とは、次の各号に掲げる事由のみをいうものとし、預金に係る債権の行使が期待される日とは、当該各号に掲げる事由に応じ、当該各号に定める日とします。

- ① 預入期間、計算期間または償還期間の末日（自動継続扱いの預金にあっては、初回満期日）
- ② 法令、法令にもとづく命令もしくは措置または契約により、この預金について支払が停止されたこと

当該支払停止が解除された日

- ③ この預金について、強制執行、仮差押えまたは国税滞納処分（その例による処分を含みます。）の対象となったこと

当該手続が終了した日

15. 休眠預金等代替金に関する取扱い

- (1) この預金について長期間お取引がない場合、休眠預金等活用法にもとづきこの預金に係る債権は消滅し、預金者等は、預金保険機構に対する休眠預金等代替金債権を有することになります。
- (2) 前項の場合、預金者等は、当金庫を通じてこの預金に係る休眠預金等代替金債権の支払いを請求することができます。この場合において、当金庫が承諾したときは、預金者は、当金庫に対して有していた預金債権を取得する方法によって、休眠預金等代替金債権の支払いを受けることができます。

16. 規定の準用

この規定に定めのない事項については、積立口預金およびおまとめ自動継続定期の各預金規定により取扱います。

17. 規定の変更

- (1) この規定の各条項その他の条件は、諸般の状況変化、その他相当の事由があると認められる場合には、当金庫ホームページへの掲載、その他相当の方法で公表することにより、変更できるものとします。
- (2) この変更は、公表の際に定める相当な期間を経過した日から適用されるものとします。

以 上